

連携・協働・推進を学ぶ領域

多職種との連携・協働について学び、対象中心のケアをめざして、実践の場における多職種連携の中で看護の役割を明確にでき、保健・医療・福祉のそれぞれの専門性を活用しケアの実践をマネジメントできる力を養う

4 年次 前期	社会福祉論	講師名	岡西 博一	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	人間が社会生活を営む際に生活上の諸問題や問題解決を図るための社会保障について学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	医療・看護と社会福祉及び社会福祉援助 ・医療・看護と社会福祉一連携をめぐる課題 ・社会福祉援助の方法（給付） ・地域福祉の考え方	
2	社会の変化と社会保障・社会福祉 ・生活と社会福祉、社会福祉の歴史 ・現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向	
3	社会保障制度と社会福祉の法・制度 ・福祉国家の類型と行政改革の課題 ・医療保障制度と健康保健及び国民健康保険など	
4	介護保障 ・介護保障の歴史と介護保険制度	
5	所得保障制度と年金保険制度及び労働保険制度など	
6	社会福祉の分野とサービス① ・高齢者福祉と障害者福祉	
7	社会福祉の分野とサービス② ・児童家庭福祉 ・権利擁護と虐待問題、ジェンダーと社会福祉	
8	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	
評価方法	レポート評価（詳細は授業時に説明）
テキスト	系統看護学講座 健康支援と社会保障制度 [3] 社会保障・社会福祉 医学書院
参考文献	
備考	

4 年次 全期	保健医療福祉の動向と法規 (保健医療福祉制度)	講師名	松木 秀明	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	人間が健康な生活を維持するために必要な公衆衛生活動および衛生法規について学び、さらに、看護活動をして行く上で必要な法令について理解を深める。 保健医療学（公衆衛生学）は、健康を守るため、あるいは患者が発生する人口集団・地域社会を対象とし、それを基本として研究を進めていく学問である。看護師はその業務において法律で守られるとともに法的規制を受ける。本講義では、公衆衛生学と関係法規を関連付けて学び現場の看護に役立てる。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	健康の水準、関係法規と保健医療	
2	人口・保健統計Ⅰ	
3	人口・保健統計Ⅱ、医療法	
4	衛生行政と地域保健、地域保健法、	
5	疫学Ⅰ	
6	疫学Ⅱ	
7	母子保健、小児保健、母子保健法・母体保護法成人保健	
8	学校保健、学校保健安全法	
9	成人保健、健康日本 21	
10	高齢者保健、精神保健、高齢者医療法、精神保健福祉法	
11	感染症の疫学、感染症法、予防接種法	
12	食品衛生、国民栄養、健康増進法	
13	環境保健、環境衛生関係法規	
14	職業保健、労働衛生関係法規	
15	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	授業前に教科書を読んでおくこと。 また授業後は教科書の章末にある「自己評価テスト」「看護国家試験既出問題」を解き、知識を自分のものにしておくこと。 さらに、日頃から新分野ニュースなど医療関係の記事や法律の改正に触れておくこと。
評価方法	筆記試験 100 点
テキスト	「よくわかる専門基礎講座 公衆衛生」松木秀明編 金原出版 系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔4〕看護関係法令 医学書院

参考文献	「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会 ナーシンググラフィカ 公衆衛生 平野かよ子他編集 メディカ出版 シンプル衛生公衆衛生学 小山洋／辻一郎監修 南江堂
備考	

3 年次 全期	地域密着健康教育	講師名	専任教員	必修	2 単位 30 時間
科目のねらい	地域や住民の生活上の課題に対する健康教育の企画・実践をととして、変化 する社会の特徴や社会保障制度をとらえ、地域住民の健康や生活を支えるため の具体的な展開方法を学ぶ。さらに、活動体験を通して自ら成長する力（連携・ 協働・推進）を培う。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	看護における健康教育の基礎的知識① 科目ガイダンス	授業配布資料に従って、各自演習の事前準備を行う。
2	看護における健康教育の基礎的知識② 接遇マナー、プレゼンテーションの考え方	
3	看護における健康教育の基礎的知識③ 事業所の理解地域探査～提案書（企画の立て方）	
4	看護における健康教育の基礎的知識④ チームビルディング	
5	健康教育の実際 ①	※5 回目以降はチームごとで活動を行う。
6	健康教育の実際 ②	
7	健康教育の実際 ③	
8	健康教育の実際 ④	
9	健康教育の実際 ⑤	
10	健康教育の実際 ⑥	
11	健康教育の実際 ⑦	
12	健康教育の実際 ⑧⑨	
13	地域において健康講座等を実施	
14	健康教育の活動報告 まとめ	※中間報告会を行い進捗状況を共有するため、チームで準備をして臨む。
15		

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	講義の内容をもとに、チームを作りそれぞれ話し合い、テーマ・対象を決め健康教育計画を立案する。実際に各事業所ごとに、対象となる地域の人々の健康や生活上の課題についてリサーチしながら企画・運営する。 各事業所ごとにチーム単位で学生自ら企画・運営していくため、チームワークよく協調性をもって積極的に授業に臨み、事業所の職員と連携を図ること。 企画した内容を実際に事業所の職員の支援のもとで実施する。 各事業所との調整については、学外活動になる場合もあるため、各自スケジュール管理すること。
評価方法	健康教育活動の取り組み 80 点 （初回授業で評価基準を示す） 最終レポート 20 点 （詳細は授業時に説明）
テキスト	随時提示
参考文献	公衆衛生がみえる メディックメディア 他、随時提示
備考	

3 年次 全期	チーム医療連携	講師名	専任教員 外部講師	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	チーム医療連携を考えるにあたり、他の専門職の視点や専門性を理解する。 また生活者にとって、より良いケアの実践を目指したチーム医療連携に向けて、 看護師の役割とは何か、連携・協働のあり方について考察を深める。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	専門職連携実践（I P W）と多職種連携教育（I P E） 多職種連携の実際（地域・医療機関）	
2	社会福祉士の専門性と多職種連携	
3	薬剤師の専門性と多職種連携	
4	栄養士の専門性と多職種連携	
5	リハビリテーション部門の専門性と多職種連携	
6	I P W演習 事例提示・検討	
7	I P W演習 グループワーク・発表 まとめ	
8		

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	チーム医療における地域連携部門の専門性と多職種連携を考えるにあたり、社会福祉士・栄養士・薬剤師・リハビリテーション部門の専門性について、それぞれの専門職の視点で講義を行います。また事例について共有・検討します。 この科目では生活者にとって、より良いケアの実践を目指したチーム医療連携に向けて、看護師の役割とは何か、看護師としてどのような知識・技術・態度が必要かを明確にしていきます。 積極的な発言と行動を期待します。
評価方法	課題評価（I P W演習のワークシート、終了後レポート）100 点 （詳細は授業時に説明）
テキスト	随時提示
参考文献	医療福祉をつなぐ関連職種連携 講義と実習にもとづく学習のすべて 南江堂
備考	随時提示

4 年次 全期	看護管理	講師名	学校長 外部講師	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	現代社会における医療・看護の現状と課題を理解し、看護の機能を効果的に発揮するための管理の原理・原則について学び、自律し協働する専門職としての看護マネジメントの基本的知識を学ぶ。 さらに、看護に関連する制度(診療報酬制度など)・政策について理解し、経済的視点、社会的視点から看護の役割を考える。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	現代社会における医療・看護の現状 ・病院経営の現状と社会的課題、看護が担う役割・課題	
2	看護管理の基礎① ・看護サービスのマネジメント、リーダーシップ・メンバーシップ ・看護組織と管理	
3	看護管理の基礎② ・医療経費と看護 ・アウトカムマネジメント	
4	看護管理の基礎③ ・人的資源管理、ワークライフバランス ・自己管理（ストレス管理、時間管理）	
5	看護基礎教育と看護継続教育 ・保健師、助産師、看護師、准看護師の養成制度の実際 ・看護継続教育、資格認定制度	
6	現代社会における看護の役割① ・看護行政と看護活動、看護師の需要と供給 ・看護師の労働環境・労働条件の整備、日本で働く外国人看護師	
7	現代社会における看護の役割② ・診療報酬体系、介護報酬体系と看護 ・多職種連携	
8	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	専門職業人を目指す人として、看護実践をとりまく社会の動きに関心を持って臨んで下さい。法律や制度も大きく変化していきます。新聞、ニュースなどから、最新の社会の動向に着目してください。
評価方法	筆記試験 100 点
テキスト	系統看護学講座 看護の統合と実践 [1] 看護管理 医学書院
参考文献	随時提示
備考	

4 年次全期	医療安全	講師名	専任教員	必修	1 単位 30 時間
科目のねらい	安全な医療を提供するために必要な知識・技術・態度、および組織的な安全管理体制について学び、チーム医療の中の医療安全における看護師としての役割と責任を理解する。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	組織としての医療安全① 個人、チーム、組織としての医療安全	
2	医療安全にむけたインシデント・アクシデント分析の基礎知識①	
3	医療安全にむけたインシデント・アクシデント分析の基礎知識②	
4	診療の補助に伴う事故防止① 注射・輸液・輸血・医療機器	
5	診療の補助に伴う事故防止② 内服・検査・チューブ類など	
6	療養上の世話における事故防止 転倒・誤嚥・入浴など	
7	チームワークトレーニングとノンテクニカルスキルの理解	
8	インシデント・アクシデント分析の実際① 事例分析	
9	インシデント・アクシデント分析の実際② 事例発表	
10	看護実践場面で生じた医療事故の分析 事例検討	
11		
12		
13		
14	組織としての医療安全② 組織（医療機関・地域・全国）としての医療安全の取り組み	
15	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	これまでの学習を統合し実践的に学びます。今まで学んだ知識・技術・臨地実習での学びや経験のすべてを想起して講義に臨んでください。 最終年次として、事故防止にむけた安全・安楽な看護技術を修得できるよう、自分のこととしてとらえ授業に臨んでほしい。
評価方法	筆記試験：70 点 事例検討演習後レポート：30 点（詳細は授業時に説明）
テキスト	系統看護学講座 看護の統合と実践 [2] 医療安全 医学書院 川村治子：医療安全ワークブック 医学書院
参考文献	RCA 根本原因分析法実践マニュアル - 再発防止と医療安全教育への活用 - 第2版. 医学書院 東京医科大学医学教育学・医療安全管理学監訳：WHO 患者安全カリキュラムガイド 多職種版 2011
備考	

4 年次全期	災害看護	講師名	村井 毅 濱野 香織	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	災害時の救護活動の基礎知識について理解し、災害看護に関する基本姿勢と看護活動について学ぶ。				

回数	授業計画	授業準備 と復習
1	災害看護①・災害看護の基礎知識 ・災害に備える（市民として看護職として）	
2	災害看護②・災害サイクルに応じた災害看護 （急性期・亜急性期・慢性期・復興期・静穏期）	
3	災害看護③・被支援者特性に応じた災害看護の展開 （小児・母性・高齢者・障害者精神障害・慢性疾患患者）	
4	災害看護④・災害時の看護活動の実際（1）トリアージ・搬送 【演習】	
5	災害看護⑤・災害時の看護活用 of 実際（2）応急処置・止血 【演習】	
6	災害看護⑥・災害時の看護活動の実際（3） 地域や病院における大規模災害時の対応①（机上シミュレーション）	
7	災害看護⑦・災害時の看護活動の実際（4） 地域や病院における大規模災害時の対応②（机上シミュレーション）	
8	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	ニュースや新聞・雑誌で報道される国内・国外の自然災害・人的災害に関する問題など、社会の動向に関心を持ち、看護の対象を幅広くとらえる姿勢で授業に臨んでほしい。
評価方法	筆記試験 100 点
テキスト	系統看護学講座 看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学 医学書院
参考文献	随時提示
備考	

4 年次全期	国際看護	講師名	専任教員 外部講師	必修	1 単位 15 時間
科目のねらい	グローバルな視点を持ち、保健医療分野での世界的問題と異文化間理解にもとづく看護を理解し、国際協力の必要性や国際社会における看護の役割と展望について考える。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	・ 国際看護とは ・ 国際看護の概要	
2	国際看護① ・ 国際社会の現状と国際看護活動の課題 ・ 国際看護活動を推進する人と機関 WHO JICA ODA NGO	
3	国際看護② ・ 異文化への理解と看護	
4	国際看護③ ・ 国際看護活動の実際（実際に活動した看護職の体験）	
5	国際看護④ ・ リプロダクティブヘルスとジェンダー（母子保健）	
6	国際看護⑤ ・ 感染症と対策	
7	国際看護⑥ ・ 日本に暮らす外国人と医療・看護	
8	評価	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	ニュースや新聞・雑誌で報道される国内・国外の保健医療に関する問題など、社会の動向に関心を持ち、看護の対象を幅広くとらえる姿勢で授業に臨んでほしい。
評価方法	筆記試験 100 点
テキスト	系統看護学講座 看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学 医学書院
参考文献	随時提示
備考	

